

開催要項

日時 令和4年11月8日(火) 13:00~16:35

形式 Zoom配信

料金<1名につき>(消費税10%含む)※1 合計参加人数に応じて単価変動します。

区分/参加者数	1~3名	4~9名	10~19名	20~49名	50名以上
改善・提案研究会 会員	8,800円	7,700円	6,600円	5,500円	4,400円
日本経営協会 会員	12,650円	11,550円	10,450円	9,350円	8,250円
一般	18,150円	17,050円	15,950円	14,850円	13,750円

いずれもテキスト・資料代を含みます。

これを機会にご入会の場合、会員扱いとなります。(入会資料は問合せ先へご請求下さい。)

定員/お申込み期日 100名/令和4年10月31日(月)※定員に達し次第申込を締め切らせていただきます。

キャンセル

お申し込み後、キャンセルされる場合は、必ず事前にご連絡ください。

開催日の3営業日前~前日までのキャンセルは参加料の30%、開催日当日は100%をキャンセル料として申し受けます。

なお、当日までに連絡なくご欠席の場合も、100%のキャンセル料となりますのであらかじめご了承ください。

お問合せ/お申込み先

一般社団法人日本経営協会 改善・提案研究会事務局 担当:松尾

〒461-0005 愛知県名古屋市中区東桜1-13-3 NHK名古屋放送センタービル10階

TEL (052)957-4172 FAX (052) 952-7418 E-mail chubu-kkg@noma.or.jp

※お電話でのお問い合わせは平日の9:15~17:15にお願いいたします。

日本経営協会 中部本部 ホームページ <http://noma-chubu.jp/>

お申込み方法

下記の参加申込書に必要事項をご記入の上、郵送又はFAXにてお申込み下さい。

折り返し、連絡票をご派遣責任者までお送りいたします。

ご記入いただきました連絡票をもとに作成した参加券と振込口座を記載した請求書をご派遣責任者までお送りいたします。

参加料は開催の3営業日前までにお振込み下さい。経理処理の都合等にて遅れる場合はご一報下さい。

- ・参加予定者のご都合が悪くなられた場合は、代理の方にご出席いただきますようお願いいたします。
- ・領収書は「振込金受領書」をもって代えさせていただきます。領収書が必要な場合はご連絡ください。
- ・振込手数料は貴社(団体)にてご負担下さい。
- ・参加者が少数の場合、天災の場合などにおいては、中止・延期させていただく場合があります。

一般社団法人日本経営協会 改善・提案研究会事務局 行 FAX (052) 952-7418

R4.11.8

60019497 第45回 改善・提案活動 中部大会 参加申込書 年 月 日

(フリガナ) 貴社名 貴団体名	-----			【ご派遣責任者】 氏名(フリガナ)
(フリガナ) 所在地	〒-----			役職
TEL	() -	FAX	() -	メールアドレス
合計参加人数 ※1	内 無料招待者	内 有料参加者		
名	名	名		

ご記入いただいた情報は、以下の目的に使用させていただきます。

①参加券や請求書の発送など運営に関わる事務処理 ②本会事業のご案内 なお②がご不要の場合は右口にチェックをご記入ください 口不要

第45回 改善・提案活動 中部大会

思いつきで終わらない! 「改善・提案活動」

主に中部地区の企業の「改善・提案活動」を行っているすべての方を対象に、「改善・提案活動」推進のヒントを掴むための情報収集・共有と今後の活動活性化を目的として、オンライン形式にて開催いたします。どこからでもご参加いただける本大会に奮ってご参加ください。

日時

令和4年 11月 8日 (火)
13:00 ~ 16:35

配信形式

Zoom配信 (Zoomミーティング)

事例発表団体

日本製鉄株式会社
東北大学
アール・ビー・コントロールズ株式会社

まとめの講義
テーマ

製造現場における
改善提案のための適切なコミュニケーション
一般社団法人日本経営協会 講師 小林 里江

特別講演テーマ

社内提案・プレゼンのポイント ~目を引く資料作成術~

プレゼンテーションクリエイター/書家/一般社団法人 プレゼンテーション協会 代表理事

前田 鎌利 氏



ご参加対象 改善提案活動にかかわるすべての方

主催



一般社団法人 日本経営協会

13:00~13:10

開催挨拶

「改善・提案研究会」中部・関西本部 企画運営委員長 川口 定

13:10~14:10

特別講演



「社内提案・プレゼンのポイント ~目を引く資料作成術~」

プレゼンテーションクリエイター/書家
一般社団法人 プレゼンテーション協会 代表理事
前田 鎌利 (まえだ かまり) 氏

画期的なアイデアも他の人に理解してもらえなければ、思いつきで終わってしまいます。特に会社組織においては、アイデアは企画書という形で提案され、多くの人の承認を得て初めて実現し効果を発揮します。アイデアをより伝えやすく・興味を引き付け承認・賛同を得ることができるような企画資料の作成方法を中心に、改善提案活動の活性化につながるプレゼンのポイントについてお話いたします。

1973年生まれ。
東京学芸大学卒業後、通信業界（ソフトバンク等）に17年間従事。
2010年 孫正義社長（現会長）の後継者育成機関である、ソフトバンクアカデミアの第1期生に選考され、年間第1位を獲得。
孫正義社長に直接プレゼンして数多くの提案を事業承認されたほか、孫社長のプレゼン資料企画・作成・演出などを手掛ける。
ソフトバンク退社後 ソフトバンク、ヤフー、ベネッセコーポレーション、SONY、JR、松竹、Jリーグ、JTなど、全国でプレゼンテーションスクールを展開。

14:10~14:20

休憩

14:20~14:35

事例発表



「超高強度鋼板の加工技術開発」

日本製鉄株式会社
東日本製鉄所 品質管理部 君津ソリューション室
上席主幹 田中 康治 (たなか やすはる) 氏

自動車の軽量化と安全性向上のために車体部品に用いられる鋼板の高強度化が求められています。しかし、鋼板は強度が高いほどプレス成形時に割れやすくなり、加工が困難になります。特に加工が難しい超高強度鋼板を自動車部品に加工するために、新たな発想のプレス工法「自由曲げ工法」を開発しました。開発にまつわる取り組みや、「技術的に不可能」という社内意見が大半であった新工法を可能とした、発想の着眼点などについて発表いたします。

14:35~14:50

事例発表



「汎用機械を用いた樹脂製反応容器の製作方法の考案」

東北大学
電気通信研究所 阿部 健人 (あべ けん) 氏

東北大学では、バイオ研究分野の支援として実験装置の設計・製作を行っています。その中で、樹脂製反応容器は耐薬品性に優れている反面、安定した製作が難しく、実験への導入は困難となっていました。そこで、新たに「汎用機械を用いた樹脂製反応容器製作方法」を考案し、「安定した製作」「耐久性の向上」を達成。バイオ分野研究における実験での、試料作製時の歩留まり率の大幅な向上に貢献しました。安定した実験環境の提供を可能とした製作方法について、発想の着眼点を含め発表いただきます。

14:50~15:05

事例発表



「センサ検査工程の改善」

アール・ビー・コントロールズ株式会社
金石工場製造技術課 榎 龍治 (かんば りゅうじ) 氏

ガス機器・住宅設備業界においては、厳格な品質基準が求められています。特にセンサ検査は、「高い安全性の維持」「生産工程の安定」を達成するためには欠かせない工程となります。しかし細やかな検査は、作業時間の増加・複雑化によるミスの発生をひいては生産性の低下をまねいてしまいます。今回はそのセンサ検査工程において「品質の向上」と「生産性の向上」を可能とした創意工夫事例について、発想の着眼点を含めご発表いただきます。

15:05~15:15

休憩

15:15~15:30

全体質疑応答

15:30~16:30

まとめの講義



製造現場における「改善提案のための適切なコミュニケーション」

一般社団法人日本経営協会 講師 小林 里江 (こばやし さとえ)

生産製造現場での経験を踏まえて、改善提案活動が円滑にかつ活性化するための適切なコミュニケーションについてお話いたします。

岐阜県土岐市生まれ。市役所勤務の後、結婚を機に退職して栃木県へ。
1995年 中小規模の製造業に就職。事務をはじめ、営業、企画、生産管理、工程管理などを任せられ、従業員2倍、売り上げ6倍という急成長の立役者となる。
2006年 会社初の女性役員に就任。翌年社長への就任も打診されるが、家族の介護のため退職。現在は組織活性化やビジネスコーチ等、多方面で活躍。

16:30~16:35

閉会挨拶

企画運営委員企業

「改善・提案研究会」中部・関西本部の企画運営委員企業 (50音順)

委員長企業：日本ガイシ株式会社

委員企業：愛知製鋼株式会社・株式会社アイシン・株式会社大塚製薬工場・株式会社小糸製作所・中部電力株式会社・株式会社デンソー

・バナソニックオペレーショナルエクセレンス株式会社・ホシザキ株式会社

今までの参加者の声

※スケジュール(時間配分)は変更の可能性がございます。

- ・アイデアの出し方、考え方、部下への教育に役立つ話ですぐに活用したいと思った。
- ・過去のアルバイト経験や「おもちゃ」の仕組みを仕事の改善に役立てていてとても勉強になりました。身近なことから改善に繋げていけるよう努めていきたいです。
- ・部下の指導法が非常に有意義だった。教えるのではなく、気づかせることを意識して部下指導に生かしていきたい。